

関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察予報第1号を發表します。

平成27年度病害虫発生予察予報 第1号

向こう1か月の病害虫発生予想

作物名	病害虫名	発生予想	発生現況
イネ	苗立枯病	平年並	—
	馬鹿苗病	平年並	—
ムギ	赤さび病	—	やや少
	赤かび病	<b>やや多</b>	—
	ヒメトビウンカ	<b>やや多</b>	平年並
春キャベツ	黒腐病	平年並	やや少
	菌核病	<b>多</b>	<b>多</b>
	アブラムシ類	平年並	やや少
	ヨトウガ	平年並	やや少
	コナガ	やや少	やや少
	モンシロチョウ	やや少	やや少
レタス	菌核病	<b>やや多</b>	平年並
	灰色かび病	<b>やや多</b>	平年並
	アブラムシ類	やや少	少
タマネギ	べと病	<b>やや多</b>	平年並
	細菌性病害	<b>多</b>	<b>多</b>
	ネギアザミウマ	平年並	平年並
	ネギハモグリバエ	やや少	少
イチゴ	灰色かび病	<b>やや多</b>	平年並
	うどんこ病	平年並	平年並
	アブラムシ類	平年並	やや少
	ハダニ類	平年並	平年並

## \* 気象の概況及び病害虫の発生動向全般

### 近畿地方 1か月予報

(5月2日から6月1日までの天候見通し)

平成27年4月30日  
大阪管区气象台 発表

#### <予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率60%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

#### <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

【気温】近畿地方	10	30	60
【降水量】近畿地方	30	40	30
【日照時間】近畿地方	30	40	30

凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

#### <気温経過の各階級の確率(%)>

1週目 近畿地方	10	30	60
2週目 近畿地方	20	40	40
3～4週目 近畿地方	20	40	40

凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

#### <予報の対象期間>

1か月	: 5月 2日(土)～ 6月 1日(月)
1週目	: 5月 2日(土)～ 5月 8日(金)
2週目	: 5月 9日(土)～ 5月15日(金)
3～4週目	: 5月16日(土)～ 5月29日(金)

## イネ

### 1 【苗立枯病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 当所への病害虫診断の中で、苗立枯病が1件認められた。

育苗期は、昼夜の温度格差が大きいことから、ムレ苗になりやすく、引いては、苗立枯病を発病する可能性が高まる。

イ 1か月予報によると、向こう1カ月の気温は高く、降水量は平年並と予想され、発生しやすい条件になると予想される。

### 2 【馬鹿苗病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 馬鹿苗病の発生は現在のところ未確認である。近年、農薬による種子消毒以外に、温湯消毒法など、物理的防除法が普及しつつあるが、処理法を誤ると本病が発生する可能性がある。

イ 1か月予報によると、向こう1カ月の気温は高く、降水量は平年並と予想され、病勢は進展すると予想される。

(3) 防除上の留意点

ア 殺菌剤吹付けまたは塗抹済み種籾を用いる場合は、種籾と水の比率に留意して浸種する。

イ 温湯消毒については、的確な温度管理と種籾と湯の比率に留意して浸種する。

ウ 種子消毒法については、「平成26年度病害虫発生予察技術情報第3号」を参照のうえ、的確な処理を行い、最大の消毒効果が得られるよう留意する。

エ 薬剤については、兵庫県農薬情報システム等を参考に選定し、農薬使用基準を守ること。

兵庫農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

## ムギ

### 1 【赤かび病】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 加西市での気象感応調査（農技総セ）によるとシロガネコムギの出穂日は、平年より3日から4日遅かったものの、気温上昇により開花期は、平年並と予想される。

イ 1か月予報によると、向こう1カ月の気温は高く、降水量は平年並と予想されている。

ウ 今後の降水量により、病勢が進展すると予想されることから適期防除に努めること。

エ 防除適期については、「平成27年度病害虫発生予察防除情報第1号」参照のこと。

(3) 防除上の留意点

ア 防除は、開花期始め～開花期盛期に薬剤散布を徹底する。

イ 薬剤については、兵庫県農薬情報システム等を参考に選定し、農薬使用基準を守ること。

兵庫農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

## 2 【ヒメトビウンカ】

### (1) 予報の内容

発生量：やや多

### (2) 予報の根拠

ア 加西市の未耕起田で4月中旬に行った越冬世代虫調査では、発生量は平年並であったが、成虫比率が82%（平年38.1%）と越冬世代の生育ステージが例年より早い。ムギでの増殖期間が長くなることに伴い、密度増加が助長されると考えられる。

イ 1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並であることから、今後越冬世代虫のムギへの飛び込みが増えるとともに、ムギにおける次世代虫（第1世代虫）の増殖が進むと考えられる。

ウ 不耕起田等イネ科雑草が繁茂している圃場は、ヒメトビウンカ越冬世代虫の生息場所になっており、ムギへの飛来源となることから、早期のすき込みを実施すること。

エ ムギで増殖したヒメトビウンカは、田植え後の水田に移動してイネ縞葉枯病を引き起こす原因になる。県西部で3月中旬に採取した越冬世代虫のウイルス保毒虫率は、5～10%程度と依然として高い状態にあり、昨年度イネ縞葉枯病が多発した地域では、不耕起田等のヒメトビウンカ越冬場所、第1世代の増殖場所となるムギでの対策を実施することが望ましい。

## 春キャベツ

### 1 【黒腐病】

#### (1) 予報の内容

発生量：平年並

#### (2) 予報の根拠

ア 4月中下旬の巡回・定点調査で、県東部でわずかに発生を認めた。

イ 1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想され、病勢の進展は緩慢であると予想される。

### 2 【菌核病】

#### (1) 予報の内容

発生量：多

#### (2) 予報の根拠

ア 4月10日、13日に実施した神戸、東播磨、淡路地域における定点調査では、発生ほ場率90%（平年20%）、発病株率11.6%（平年1.0%）と平年を大きく上回っていた。

イ 過去10年間で最も多い発生であることから「平成27年度病害虫発生予察注意報第2号（4月15日付）」を発表し、防除対策等を指導した。

ウ 1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想され、気温の上昇により発病適温となることから感染が助長されると予想される。

#### (3) 防除上の留意点

ア 発病株は、菌核を形成しないうちに抜き取り、ほ場外で処分すること。菌核は、被害残渣とともに土壌中に残存して、次作の伝染源になることからほ場に残さないようにすること。

イ 結球開始期から予防的に薬剤散布を実施すること。なお、薬剤は初発部位である株元に十分かかるように散布すること。

ウ 防除薬剤については、兵庫県農薬情報システム等を参考に選定し、使用回数、収穫前日数をよく確認し、農薬使用基準を遵守すること。

兵庫農薬情報システム（<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>）

### 3 【モンシロチョウ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 4月中下旬の巡回調査では、県東部、淡路とも幼虫の発生を認めなかった。
- イ 圃場周辺で成虫の飛翔が観察されており、今後、気温の上昇に伴い幼虫の発生がみられると予想される。

### 4 【コナガ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 4月中・下旬の巡回調査では、県東部、淡路とも幼虫の発生を認めなかった。
- イ 加西に設置したフェロモントラップにおいて、成虫の発生が認められている。
- ウ 今後、気温の上昇に伴い幼虫の発生がみられると予想される。

### 5 【ヨトウガ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 4月中・下旬の巡回調査では県東部、淡路とも幼虫の発生は認めなかった。
- イ 加西に設置したフェロモントラップにおいて、例年より早い時期から成虫の発生が確認されている。
- ウ 今後、幼虫の発生により食害が見られることが予想される。

### 6 【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：
- (2) 予報の根拠
- ア 4月中・下旬の巡回調査では県東部でモモアカアブラムシ、ダイコンアブラムシの発生を認めているが、発生量はやや少なかった。
- イ 今後、気温の上昇に伴い発生が増えると予想される。

## 春レタス

### 1 【菌核病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 4月中旬の定点調査においては、発生ほ場率20%（平年13.8%）、発病株率0.4%（平年0.8%）と平年並の発生であった。
- イ 1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想され、今後気温の上昇により発病適温となることから感染が助長されると予想される。
- (3) 防除上の留意点
- ア 発病株を見つけたら、新たな菌核をつくらないうちには場外に持ち出し、処分する。
- イ 防除薬剤については、兵庫県農薬情報システム等を参考に選定し、使用回数、収穫前日数をよく確認し、農薬使用基準を遵守すること。

## 2 【灰色かび病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 4月中旬の定点調査においては、県全体の発生ほ場率50%（平年16.7%）、発病株率1.2%（平年0.6%）と平年並の発生であった。
- イ 1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想され、今後発生はやや多い状態で維持されることが考えられる。

## 3 【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 4月中・下旬の淡路地区での巡回調査では発生を認めなかった。
- イ 今後の気温の上昇に伴い発生が予想される。

## タマネギ

### 1 【べと病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 4月中旬の淡路地域における定点調査では、発生を認めなかったが、巡回調査地点以外のほ場で発病を認めた。
- イ 1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年並、降水量は平年並と予想され、今後発生は助長されることが考えられる。

### 3 【細菌性病害】

- (1) 予報の内容 発生量：多
- (2) 予報の根拠
- ア 4月中旬の南あわじ市野菜病害虫防除推進会議と連携して実施した巡回調査では、発生圃場率56.2%（平年値13.7%）、発病株率0.56%（平年値0.09%）と平年を大きく上回っていた。
- イ 過去10年間で最も多い発生となっていることから、「平成27年度病害虫発生予察注意報第1号（4月13日付）」を発表し、防除対策等を指導した。
- ウ 1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想される。
- エ 今後、気象条件によって病勢は維持または助長されることが考えられる。
- (3) 防除上の留意点
- ア 伝染源となる腐敗株を早期に抜取り、ほ場外で処分すること。
- イ 排水不良は発病を助長するので、ほ場排水対策を徹底すること。
- ウ 収穫は晴天時に行なうとともに鱗茎は十分に乾燥させてから収穫すること。また、早期収穫は貯蔵腐敗を助長するため、適期収穫を行うこと。
- エ 発生ほ場では、早急に薬剤防除を行うこと。薬剤については、兵庫県農薬情報システム等を参考に選定し、農薬使用基準を守ること。
- 兵庫農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

#### 4 【ネギアザミウマ】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 巡回調査では発生ほ場率66.7% (平年30%) とやや高かったが、平均発生虫数1.0頭/10株 (平年1.0) と、発生量は平年並の発生であった。

イ 今後、発生量は平年並で推移すると予想される。

#### 5 【ネギハモグリバエ類】

(1) 予報の内容

発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 4月中下旬の巡回調査での発生を認めていない。

イ 今後、気温の上昇に伴い発生が見られると予想される。

### イチゴ

#### 1 【灰色かび病】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 場内イチゴハウス調査によると発生は認めなかったがトマト等他作物で発生を認めた。

イ 1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想され、今後発生は、やや多い状態で維持されると予想される。

(3) 防除上の留意点

ア 罹病葉・果実は早めに取り除く。

イ 防除薬剤については、兵庫県農薬情報システム等を参考に選定し、農薬使用基準を遵守すること。

兵庫農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

#### 2 【うどんこ病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 場内イチゴハウス調査によると、例年に比べ発生量は平年並の発生であった。

イ 1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想され、今後も平年並の発生が予想される。

#### 3 【アブラムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 場内イチゴハウス調査によると、例年に比べ発生量はやや少なかった。

イ 今後、気温の上昇に伴い発生の増加が予想される。

#### 4 【ハダニ類】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 場内イチゴハウス調査によると、例年に比べ発生量は平年並であった。

イ 今後、気温の上昇に伴い発生の増加が予想される。

**\* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載  
(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/>)**